会津、江戸時代の街道

会津若松市の大町四つ角

会津若松市河東町、八田の一里塚

会津若松市・磐梯町、日橋跡

会津五街道とは

　寛永20年（1643）に徳川秀忠の子保科正之が23万石で会津藩主となります。幕府へ領内の若松城下に通じる街道の届けを慶安2年（1649）11月「会津城下より隣国居城迄の道法（みちのり）」を届け出、大町四つ角の「札之辻」を基点としました。寛文7年(1667)には、一里塚、松並木、宿場と街道を整備しています。大町四つ角には、基準の石が残されています。写真は「道路元標」

『会津藩家世実紀』慶安2年の届けによると
「本道五筋」（五街道）とは、
「若松より白川領江花村への道」（白河街道）
「南山通り宇都宮領藤原村（日光市藤原）への道」（南山通りと呼んでいたが後に下野街道・会津西街道とも呼ばれた）、土砂崩れで下郷町松川を通る「松川街道」も一時使用されました。
「小川庄赤谷通り越後新発田領山之内村（新発田市山内）への道」（越後街道）
「津川より越後村上草水村（新潟市秋葉区草水町）へ出る川舟路」（阿賀川水運）
「耶麻郡桧原通り米沢領綱木村（米沢市綱木）への道」（米沢街道）
「猪苗代通り二本松領中山村（郡山市熱海町中山）への道」（二本松街道）
以上、陸路が５筋、水路1筋を指します。上・下や裏街道もあり、脇街道といなる小道は25筋あると届けています。

　街道の呼び名は、若松からの行先名で呼んでいました。その他、街道には、只見、伊南、桧枝岐から群馬県の沼田へ行く沼田街道、福島へ土湯峠を通る福島街道もありました。

図・写真・文　©石田明夫　問合せ　TEL・Fax 0242-24-3423　090-1378-8087
メール・ホームページ「考古学から見た会津の歴史」で検索